



株主・投資家の皆さまへ

リンガーハット

株主通信

Vol.25

第54期 2017年3月1日～2018年2月28日



株式会社リンガーハット

証券コード:8200





株式会社リンガーハット
代表取締役会長兼 CEO

水濱 和英

TOP INTERVIEW

一つひとつのことをすべて徹底する 意識に実行がともなった企業体質を実現します

Q 2017年度の業績の振り返りを。

A 通期で売上増を確保したものの、原材料費の高騰や人件費の上昇の影響を受け、減益となりました。

外食産業を取り巻く経営環境は、上期までは緩やかな景気回復の後押しもあり堅調に推移をいたしました。しかし下期以降は一転、前連結会計年度を下回る局面が続きました。冬場の野菜の不作と高騰、依然として続く人手不足と人件費の上昇もあり、予断を許さない厳しい状況にあります。そのような中、リンガーハットグループでは「食の安全・安心、健康づくり」を地道に進化させていくとともに『全員参加で企業体質を改革しよう』をスローガンに、より持続発展可能な企業体質の構築と企業価値の向上に努めました。

現在当グループでは、ASEAN 地域を中心とした海外出店を進めています。企業規模を拡大していく過程においては、一つひとつのことがすべて徹底されている、そういう企業体質が不可欠です。当社が

提供するサービスの基本、QSC や5S をより高い水準で徹底していくべく、仕組みと体質の改革に全力で取り組んでいます。

以上の結果、当2017年2月期連結累計期間の売上高は456億82百万円（前連結会計年度比4.2%増）、営業利益は28億25百万円（同14.0%減）、経常利益は27億82百万円（同11.9%減）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は13億33百万円（同17.7%減）という増収減益となりました。

Q 事業展開についての評価を。

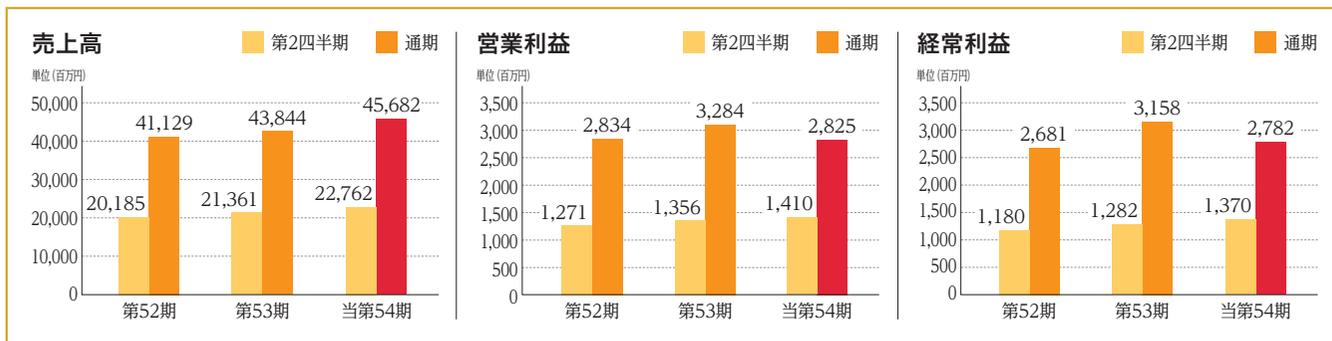
A 主力商品のさらなる品質向上と改良改善の取り組みに、手応えを得られました。

「長崎ちゃんぽんリンガーハット」では、まぜめんの新たな提案「牛・がつつりまぜめん」を新発売したほか、季節定番の「冷やしちゃんぽん」「かきちゃんぽん」「白菜ちゃんぽん」をブラッシュアップして販売しました。販売促進施策としては、2017年3月より当社所属となった体操の内村航平選手を前面に打ち

出した「全日本体操選手権個人総合10連覇達成記念キャンペーン」や「リンガーハット×私立恵比寿中学コラボ」などを実施したほか、好評いただいている「日本の野菜の日」を継続しました。

「とんかつ濱かつ」では、お客さま満足度の向上を目指し、店舗オペレーションの改革に取り組みました。商品提供をよりスムーズにするお膳提供の導入店舗拡大、濱かつの特長である“おかわり”でお待たせしないための、セルフ式おかわりコーナーの設置を進めています。“中食志向”の高まりへの対応として、商品の受け渡し後約30分は温かさが持続する、保温性に優れた新お弁当箱も導入しました。販売促進施策としては、毎月29日を「肉の日」とし、人気商品の一部を特別割引で提供しました。

■ 連結決算ハイライト



Q 新業態の展開の狙いは。

A リンガーハットを軸に、地域のお客さま層に合ったサービスを提供できる、適応力のある外食チェーンを目指すための取り組みです。

「長崎ちゃんぽん リンガーハット」では、働く女性に優しい店づくりをコンセプトとして、こだわりのおかずと定食を提供する「Ringer Deli (リンガーデリ)」の1号店をアクロスプラザ与次郎店(鹿児島市)にオープンしました。また、メインとなるソースに季節の野菜たっぷりのデリと、こだわり抜いたヌードルをワンボウルに入れて召し上がっていただける新スタイル業態「EVERY BOWL (エブリボウル)」1号店を渋谷区広尾(東京都)にオープンしました。どちらの業態も主なターゲットを女性としています。“my ちゃんぽん”でノウハウを得た“選べる・カスタマイズできる”コンセプトを発展させ、健康にやさしい野菜を中心とした商品を、ご自身



の好みで選び・組み合わせるサービスです。また、お酒と一緒に食事を楽しみたいという、夜のお客さまニーズに応えた「Ringer Hut PREMIUM」店を2017年12月より展開、現在、東京・日比谷、横浜駅西口に出店しています。

「とんかつ濱かつ」では「とんかつ大学」を新たに立ち上げました。おいしいとんかつ・揚げ物をフードコートで食べたいというお客さまニーズは以前から耳に届いておりましたので、フードコートのスタイルに合わせた提供の仕組みを新たに構築しスタートさせました。近年、当グループでは新規出店をフードコート中心に進めていますので、その流れに乗って「とんかつ大学」もまた拡大させていくことを計画しています。

Q 安全・安心、品質の取り組みへの評価を。

A 『商売の原点 = より多くのお客さまから選ばれる』に立ち返り、徹底できているかを再確認していきます。お客さまの信頼に水を差すようなことがないように、

株式会社リンガーハット
代表取締役社長

秋本美樹



安全・安心と品質管理に注力してまいりました。提供する商品・サービスについてお客さま相談室に寄せられるご指摘やクレームの件数が前連結会計年度比で3割減という改善があった一方で、9月にはお持ち帰り用冷凍食品「リンガーハットのチャーハン」のアレルギー原材料の誤表記(任意表示欄内)という、お客さまにご心配をおかけする事態を起こしてしまいました。このことはグループ全社で厳粛に受け止め、あらためて「安全・安心」の重要性の認識を新たにするとともに、より一層の品質管理体制に努めていきたいと存じます。

新しい挑戦を続けていくことが収益拡大の条件であることに疑いはなく、それらは徹底して実行される必要があります。当社では、企業体質をより強固なものへと改めるべく、取り組みを強化していきます。引き続き、当社グループへのご支援を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。



長崎ちゃんぽん事業

積極的な新商品の投入と品質向上の取り組みにより、増収を達成しました。
新たに2つの新業態を立ち上げ、さらなる売上・利益率の向上を目指します



野菜たっぷりちゃんぽん
栄養たっぷりの国産きくらげが入った
野菜が1食480グラム

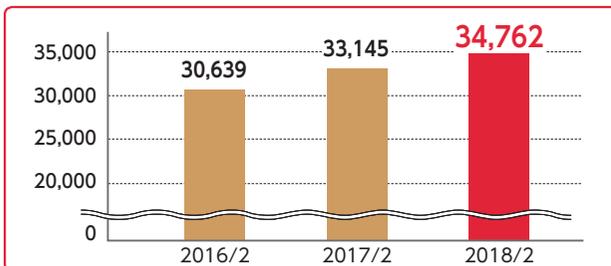


牛・がっつりまぜめん
すきやき味の牛肉を
がっつり150グラム

2018年2月期

売上高……………34,762百万円
前連結会計年度比……………104.9%

▶売上高 (百万円)



長崎ちゃんぽんリンガーハットについては、お客さまに支持される、訴求力のある商品の開発・品質向上に
取り組み、売上・利益率の向上を目指しました。

商品施策では、「まぜめんシリーズ」の新作「牛・がっつりまぜめん」のほか、季節商品として、夏にアイドルグループとのコラボを含む3種類の「冷やしちゃんぽん」、秋に「かきちゃんぽん みそ」「えびちゃんぽん トムヤム」、冬に「白菜ちゃんぽん 豆乳仕立て」を販売。四季を通じて、魅力ある商品の提供に努めました。

2017年10月からは、2016年の台風被害の影響により使用を見合わせていた、北海道産コーンの使用を再開しました。再開時にはコーン無料増量キャンペーンも実施しました。

新規出店については、こだわりのおかずと定食を提供する「Ringer Deli」と、デリとヌードルを好みで選べる「EVERY BOWL」の、2つの新業態を出店したほか、ショッピングセンターを中心に国内39店舗*1、海外は初出店したカンボジア・プノンペン店を含む6店舗*2を出店しました。リロケートを含む退店は31店舗でした。

この結果、当連結会計年度末の店舗数は国内645店舗、海外13店舗の658店舗（うちフランチャイズ店舗204店舗）となりました。

また、岡山県・鳥取県以西（沖縄県除く）の西日本エリア店舗で、価格改定を実施しました。

以上の結果、売上高は347億62百万円（前連結会計年度比4.9%増）、営業利益は20億1百万円（同24.7%減）となりました。

*1 EVERY BOWLを含む

*2 新業態のSOBAYA（米国ハワイ州）を含む

事業トピックス

カラダに合ったデリとヌードル 選べる・組み合わせ自由 「EVERY BOWL」誕生

「EVERY BOWL (エブリ ボウル)」は、リンガーハットグループが「食の安全・安心、健康づくり」をテーマに、新たに誕生させた業態です。

その日その時カラダが食べたいと思うものを、お客さまが自由に組み合わせを選べるのが特徴です。「myちゃんぼん」のカスタマイズノウハウや、好評いただいているまぜ辛めんのコンセプトを発展させました。

ブランドのコンセプトメイクにパートナー企業の協力を得て、従来のリンガーハットブランドとはまた違った特徴も打ち出しました。

1号店は路面店舗で東京・広尾に、2号店は九州・宮崎にフードコート店舗として出店。より多様なお客さま層に、この新しい業態を認知いただくことを第一歩として、さらなる拡大を図っていきます。



EVERY
BOWL



北海道産コーンの使用を 2017年10月より再開しました

リンガーハットグループでは、国産食材の使用を積極的にすすめています。2016年夏に発生した台風被害の影響で使用を中止していた北海道産コーンを、安定確保・供給の見通しが立ったため、2017年10月1日より全店舗での使用を再開しました。



春の季節限定商品 あさりたっぷり春ちゃんぽんを発売*

夏・秋・冬向けに発売してきた季節限定商品に、新しく春向けの商品をラインナップしました。春のあさは産卵を間近に控えて体が肥える旬の時期。その旨味を楽しんでいただける一品です。

(*2018年3月15日より販売開始)





とんかつ事業

商品・販売施策およびオペレーションの改善により、増収増益を達成しました。新業態「とんかつ大學」では、フードコートへの出店拡大を図り、売上げ増加を目指します。



梅しそ巻とヒレ膳

梅肉を暑い夏にさっぱり食べられる一品。ボリュームある夏季限定商品



濱かつスペシャル定食

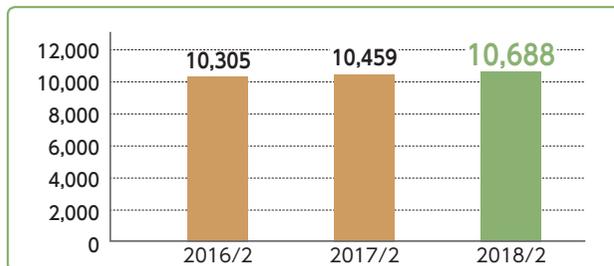
3種のかつに、大振りのエビフライが付いた人気メニュー

2018年2月期

売上高……………10,688百万円

前連結会計年度比……………102.2%

▶売上高 (百万円)



とんかつ濱かつについては、「おいしいとんかつ料理を、いつでもおなかいっぱい召し上がっていただく」ために、料理・サービスの磨き込みに取り組みました。

商品施策としては、四季折々の旬の味覚を取り入れた季節商品を販売、春に「桜香るミルフィーユかつ」、夏に「梅しそ巻」「わさびおろしロースかつ」、秋冬に「かきふらい」などを提供しました。毎月29日には、お客さまへお得にかつを提供する『濱かつ29(にく)の日』として、ロースとヒレかつ定食またはバラエティかつ定食を、特別価格税込1,290円で販売しております。

お客さま満足度向上の施策としては、お膳提供実施店舗の拡大、タブレットを用いたセルフオーダーシステム、自動ごはんおかわり機の導入や、おかわりの味噌汁の具材を自由に選べるおかわりコーナーの設置などに取り組みしました。

テイクアウト販売の施策としては、芝浦工業大学との産学連携による共同研究の結果、より保温性に優れた弁当容器を開発し、ご自宅でも温かい状態のとんかつを楽しんでいただけるようになりました。

また、長崎の郷土料理「卓袱」を楽しめる「長崎卓袱 浜勝」の内装を、より幅広いお客さま層にご利用いただけるよう、リニューアルしました。

新規出店については、新業態の「とんかつ大學」1店舗を出店しました。退店は4店舗。この結果、当連結会計年度末における店舗数は国内106店舗*、海外2店舗の108店舗(うちフランチャイズ店舗18店舗)となりました。

以上の結果、売上高は106億88百万円(前連結会計年度比2.2%増)、営業利益は6億32百万円(同22.4%増)と、増収増益となりました。

* 和食業態の「長崎卓袱 浜勝」を含む

事業トピックス

新業態「とんかつ大學」誕生！ フードコートで、とんかつ・揚げ物を提供

「とんかつ大學」は、安全で鮮度の良いおいしい肉やエビを、徹底した温度管理にこだわりながら、揚げたてのおいしさをオープンキッチンで提供する、フードコート向けの新業態です。「とんかつ濱かつ」で半世紀にわたり培ってきたノウハウを活かし、フードコートの規格に合わせたキッチン設備を新たに開発、難しいと言われてきたフードコートでの揚げたて商品の提供を実現しました。

メニューも、フードコートの客層や利用シーンを想定し、価格帯は1,000円以下に抑え、「とんかつ大學」オリジナル商品も加えて展開します。

フルサービスの「とんかつ濱かつ」、フードコートの「とんかつ大學」の両ブランドの特長をそれぞれ活かしつつ、これまで以上に多くのお客さまから求められるお店を目指していきます。



お膳提供、おかわりコーナーなど ご利用しやすいお店づくりを進めています

とんかつ濱かつでは、サービスの円滑化、人材不足対策の一環として、店舗オペレーションの改良に取り組んでいます。提供時間短縮のため、お膳提供やタブレット注文、セルフ式おかわりコーナーなどを一部店舗に導入、今後拡大を検討しています。

おかわりコーナー
(選べるごはん)



おかわりコーナー
(選べる味噌汁具材)

西日本エリアの店舗で 価格改定を実施しました

「とんかつ濱かつ」の岡山県以西の西日本エリア店舗（87店）において、一部商品の価格を改定しました。国産野菜を使用しつつも、コスト削減に取り組み、価格維持に努めましたが、原材料費・人件費等の高騰の影響が大きく、価格改定を実施しました。

内村航平交流イベントIN長崎 『体操教室&トークショー』を開催しました

リンガーハットグループでは、子どもたちの健やかな成長に寄与するため、食育活動に取り組んでいます。2017年11月26日、リンガーハット所属の内村航平選手による、体操と食育をテーマにした交流イベントを、内村選手の出身地であり、リンガーハットグループ創業の地でもある、長崎県で初開催しました。

当日は約600組の申し込みの中から選ばれた80組の親子が参加し、内村選手とともに体を動かす楽しさを体験するとともに、食事の大切さを学びました。後半のトークショーには、荒天にもかかわらず約400名が参加し、内村選手の語りを楽しめました。

リンガーハットグループでは、今後も内村選手とともに、この取り組みを続けていく予定です。



海外出店を拡大 カンボジアへ初出店しました

タイの隣国カンボジアの首都プノンペンに1号店を出店しました。ASEAN地域における出店は、タイ・インドネシアに続き3か国目となります。カンボジアは近年高い経済成長率を維持しており、今後さらなる経済発展が見込まれています。2020年までに海外店舗50店舗を目指しています。今回の出店はその戦略の一環となります。



カンボジア1号店

第三工場を京都府京田辺市に 取得しました

日本国内における店舗網の拡大と自然災害時の危機管理体制強化の観点から、リンガーハットグループでは、製造拠点の分散配置と増強を検討してきました。このたび、京都府京田辺市に第三工場を取得。今後は、近畿・中京圏店舗向けの食材加工を同工場が担う計画です。



AED(自動体外式除細動器)を 全店舗*に設置します

お客さまの「安全・安心」に寄与する取り組みの一環として、リンガーハットグループでは、フランチャイズ店舗を含む全店舗に、AED(自動体外式除細動器)の導入を進めています。設置にあたり、従業員へのAED研修の実施も計画しています。

*ショッピングセンター内などにAED設備のある店舗を除く



AED研修の様子

リンガーハットグループが支援する 『V・ファーレン長崎』がJ1リーグ昇格!

リンガーハットグループ創業の地・長崎をホームタウンとする、プロサッカーチーム「V・ファーレン長崎」が2017年シーズンJ2リーグ2位となり、待望のJ1リーグ昇格を決めました。リンガーハットグループは今後も、同チームのオフィシャルスポンサーとして、支援をしていきます。



濱かつ・
リンガーハットDAYの様子

連結財務諸表

▼ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当連結会計年度 2018年2月28日現在	前連結会計年度 2017年2月28日現在	差異
資産の部			
流動資産	8,701	11,307	△2,606
固定資産	23,068	21,885	1,183
資産合計	31,769	33,192	△1,423
負債の部			
流動負債	6,175	7,620	△1,445
固定負債	5,677	6,567	△890
負債合計	11,852	14,187	△2,335
純資産の部			
純資産合計	19,916	19,005	911
負債及び純資産合計	31,769	33,192	△1,423

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末に比べ14億23百万円減少し317億69百万円となりました。これは主に、現金及び預金が29億31百万円減少したことや、有形固定資産が11億1百万円増加したことによります。

負債は前連結会計年度末に比べ23億34百万円減少し、118億52百万円となりました。これは主に、短期借入金が13億50百万円減少したことや、長期借入金が11億71百万円減少したことによります。

純資産は前連結会計年度末に比べ9億11百万円増加し199億16百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ5.3ポイント増加し62.6%となりました。これは主に、利益剰余金が8億4百万円増加したことによります。

▼ 連結損益計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 2017年3月1日から 2018年2月28日まで	前連結会計年度 2016年3月1日から 2017年2月28日まで	差異
売上高*	45,682	43,844	1,838
売上原価	14,747	13,855	892
営業総利益	30,935	29,989	946
販売費及び一般管理費	28,109	26,705	1,404
営業利益	2,825	3,284	△459
経常利益	2,782	3,158	△376
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,333	1,620	△287

※売上高にはその他の営業収入を含めています。

出店政策については、既存店のスクラップアンドビルドや新業態開発に取り組み、海外6店舗を含む計46店舗を新規出店しました。一方で、35店舗を退店した結果、当連結会計年度末では、国内で751店舗、海外で15店舗、合計766店舗（うち、フランチャイズ222店舗）となり、前連結会計年度比で11店舗の増加となりました。

売上高については、西日本エリアで価格改定を実施し、純既存店客数は前連結会計年度比で99.4%、純既存店売上高は前連結会計年度比101.5%となりました。しかし、原材料価格や運賃、人件費の増加を吸収するまでには至りませんでした。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は456億82百万円（前連結会計年度比4.2%増）、営業利益は28億25百万円（同14.0%減）、経常利益は27億82百万円（同11.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は13億33百万円（同17.7%減）となりました。

▼ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 2017年3月1日から 2018年2月28日まで	前連結会計年度 2016年3月1日から 2017年2月28日まで	差異
営業活動による キャッシュ・フロー	3,560	3,544	16
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,072	△1,614	△1,458
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,461	5,276	△8,737
現金及び 現金同等物の 期首残高	8,906	1,711	7,195
現金及び 現金同等物の 期末残高	5,975	8,906	△2,931

営業活動の結果得られた資金は35億60百万円（前連結会計年度比0.4%増）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益21億49百万円と減価償却費15億19百万円によるものです。

投資活動の結果支出した資金は30億72百万円（同90.4%増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出30億円によるものです。

財務活動の結果支出した資金は34億61百万円（前連結会計年度は52億76百万円の資金流入）となりました。これは主に、短期借入金の減少14億5百万円と長期借入金の返済による支出12億6百万円によるものです。

以上の結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ29億31百万円減少し、59億75百万円となりました。



(後列左より)

社外監査役	社外監査役	常勤監査役	執行役員	執行役員	執行役員	執行役員	リンガーハット開発(株) 代表取締役社長	リンガーフーズ(株) 代表取締役社長	執行役員	執行役員	執行役員	リンガーハット ジャパン(株) 執行役員	リンガーハット ジャパン(株) 執行役員	浜勝(株) 執行役員	(株)ミヤタ 代表取締役社長
渡邊 佳昭	山内 信俊	内田 智明	種川 浩之	杉野 隆宏	川内 辰雄	岡野 弘明	山口 雅彦	鎌田 武紀	山崎 繁樹	井原 康晴	坂本 吉行	熊 秋利	若杉 茂雄	山岡 雄二	宮田 正一

(前列左より)

取締役最高顧問 (非常勤)	取締役	取締役	取締役副社長	代表取締役 社長	代表取締役 会長兼CEO	専務取締役	取締役	社外取締役	社外取締役
米濱 鈺二	小田 昌広	福原 扶美勇	前田 泰司	秋本 英樹	米濱 和英	八幡 和幸	佐々野 諸延	川崎 享	金子 美智子

株式の状況

発行可能株式総数	46,000,000株
自己株式数	1,004,165株
発行済株式総数	26,067,972株
株主数	35,680名

大株主一覧

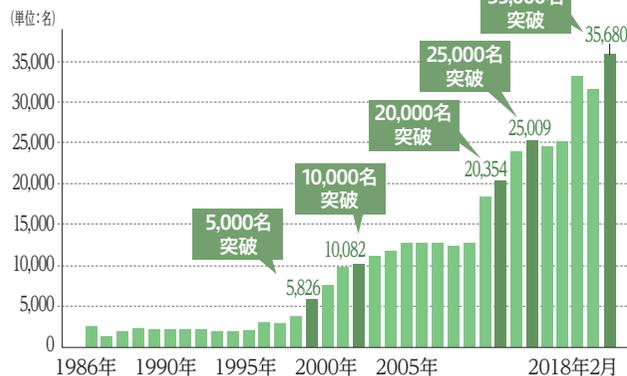
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,053	4.20
株式会社十八銀行	1,005	4.01
第一生命保険株式会社	629	2.51
公益財団法人米濱・リンガーハット財団	600	2.39
株式会社三菱UFJ銀行	535	2.13
アサヒビール株式会社	527	2.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	463	1.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	410	1.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	397	1.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	352	1.41

※ 大株主の持株比率は自己株式を控除して計算しています。

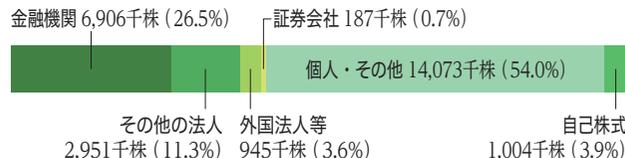
※ 日本トラスティ・サービス信託銀行及び日本マスタートラスト信託銀行の保有株式は、証券投資信託等の信託業務に係る株式です。

※ 株式付与型 ESOP 信託導入に伴い、日本マスタートラスト信託銀行(株式付与型 ESOP 信託口) が取得、保有する当社株式 183,554 株は、自己株式には含めておりません。

総株主数



所有者別分布状況



これまでの配当実績



株主メモ

事業年度	毎年3月1日～翌年2月末日
期末配当金受領株主確定日	2月末日
中間配当金受領株主確定日	8月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(第1部)、 福岡証券取引所 ※証券コード8200
単元株式数	100株
公告方法	電子公告によりこれを行います。ただし、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載して公告します。 ※電子公告掲載アドレス http://www.ringerhut.co.jp/

株式に関するお手続きについて

特別口座に記録された株式	お問い合わせ先
お手続き、ご照会等の内容 ●特別口座から一般口座への振替請求 ●単元未満株式の買取(買増)請求 ●住所・氏名等のご変更 ●特別口座の残高照会 ●配当金の受領方法の指定※ ●郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ●支払期間経過後の配当金に関するご照会 ●株式事務に関する一般的なお問い合わせ	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 0120-232-711 (通話料無料)

※ 特別口座に記録された株式をご所有の株主さまは、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

証券会社等の口座に記録された株式	お問い合わせ先
お手続き、ご照会等の内容 ●郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ●支払期間経過後の配当金に関するご照会 ●株式事務に関する一般的なお問い合わせ	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 0120-232-711 (通話料無料)
●上記以外のお手続きやご照会	証券口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

株主優待について

毎年2月と8月の末日現在の株主名簿に記載または記録された株主さまには、年2回(5月・11月)ご所有株数に応じて「食事ご優待券」を贈呈いたします。

また、3年以上の継続保有*の株主さまには、長期保有優遇優待として、年1回(5月)ご所有株数に応じて、加算して贈呈いたします。

(* 株主名簿に同一の株主番号で連続して7回以上記録された株主さま)

お近くにご利用店舗がない株主さまには、「食事ご優待券」と引き換えに自社製品をお送りいたします(ただし、引き換えは優待券5枚以上、引き換え期間は6～9月、11～1月限定とさせていただきます)。

券売機店舗での「食事ご優待券」ご利用時には、食券をご購入される前に店員までお声かけください。



個人投資家さま向け IR 情報メール配信サービスを開始

当社株主名簿管理人の三菱UFJ信託銀行株式会社が運営するIRメール配信サービスにて、株主・投資家の皆さま向けの当社のIR情報、ニュースリリース等を配信しております。

下記アドレス(またはQRコード)より無料でご登録いただけますので、是非ご利用ください。よう、ご案内申し上げます。(https://rims.tr.mufg.jp/?sn=8200)



送料全国一律
980円
6,000円以上で
送料無料

リンガーハット オンライン ショップ



野菜たっぷりちゃんぽん

お店の味を
ご家庭で!



牛・がっつりませめん



●野菜たっぷりちゃんぽん
3食 (2,160円税込)



●牛・がっつりませめん
(2,400円税込)



●長崎血うどん
4食 (2,160円税込)



●長崎ちゃんぽん
4食 (2,400円税込)

ホームページで公開中



長崎ちゃんぽん・血うどんに、旬の野菜を“ちよい足し”して、もっとおいしく楽しむレシピを紹介。ぜひお試しください!



そら豆は、たんぱく質やビタミンなどの栄養素が豊富に入った、頼もしい野菜です。

ご贈答に長崎の味「和華蘭」を 和華蘭お漬物詰め合せ

独特の香りと豊かな味わいが特徴の、長崎で古くから栽培される唐人菜を使った「ぶらぶら漬」を始め、長崎県産の野菜を使った昔ながらのお漬物、全6種を詰め合わせました。1パック50gの食べきりタイプで、1種類につき2パック入り。おつまみとしてお薦めです。贈答品などにご利用ください。




<http://www.rhk-shopping.jp/>

※パッケージは予告なく変更する場合がございます。

ご注文方法

お電話で
0120-307-490
受付時間：平日9:00～17:00

インターネットで
リンガーハットオンラインショップ
<http://www.rhk-shopping.jp/>
パソコン、スマートフォン、携帯電話からご利用いただけます。

・電話でのご注文の場合、お支払い方法はコンビニ振替が代金引換のみとなります。
・オンラインショップでは株主優待券はご利用いただけません。

会社概要

株式会社リンガーハット

- 会社名(英文名)
株式会社リンガーハット(RINGER HUT CO., LTD.)
- 設立
昭和45年6月13日(創業 昭和37年7月22日)

- 資本金 9,002,762,834円
- 主な事業内容
長崎ちゃんぽん専門店「リンガーハット」、
とんかつ専門店「漬かつ」のチェーン展開
- 従業員数(連結ベース)
正社員 / 596名
リンガーマイト・スター(パートタイマー・アルバイト) / 約10,000名

- グループ(全766店舗)(2018年2月28日現在)

北海道・東北地方.....20店舗	中国・四国地方.....46店舗
関東地方.....295店舗	九州・沖縄地方.....246店舗
中部地方.....71店舗	海外.....15店舗
近畿地方.....73店舗	

ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、より多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字を採用しています。

